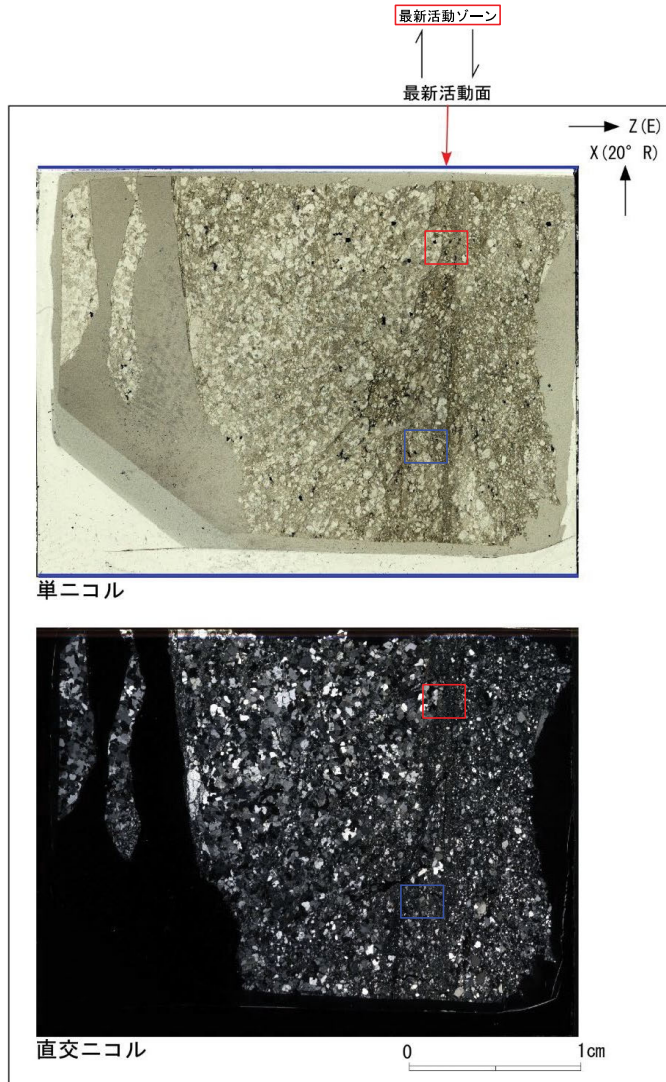


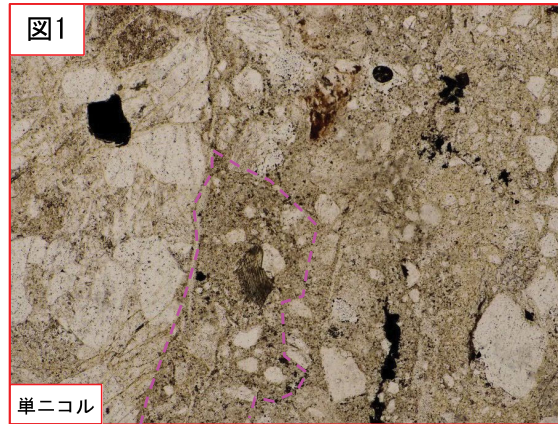
H24-B14-2 深度101.47~101.52m (2/2)

45のエビデンス (薄片観察結果) (2/2)

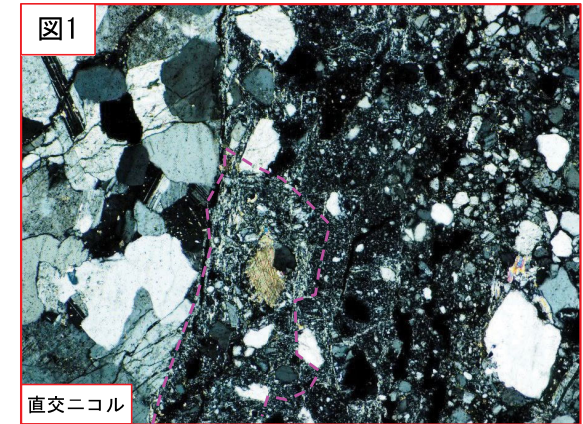
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



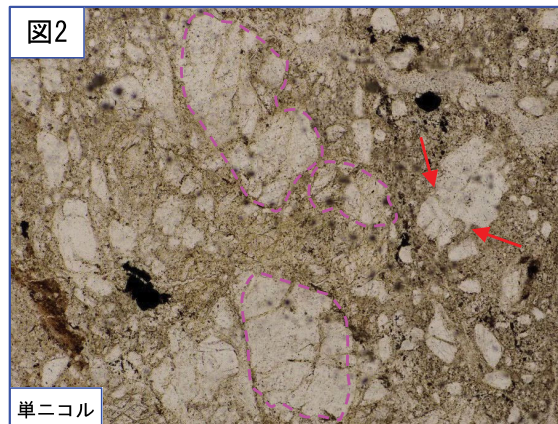
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



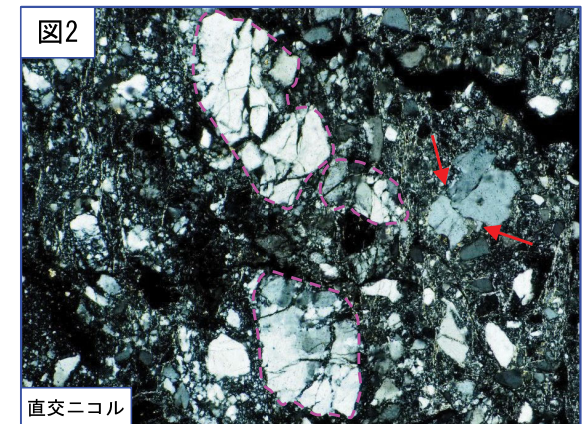
破線は粘土状部の分布範囲を示す。 500 μm



500 μm



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。破線部はジグソー状の角礫群の範囲を示す。 500 μm



500 μm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H24-B14-2 深度109.16~109.46m) 46のエビデンス(ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は1.0cmである。

コア写真



凡例

断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載

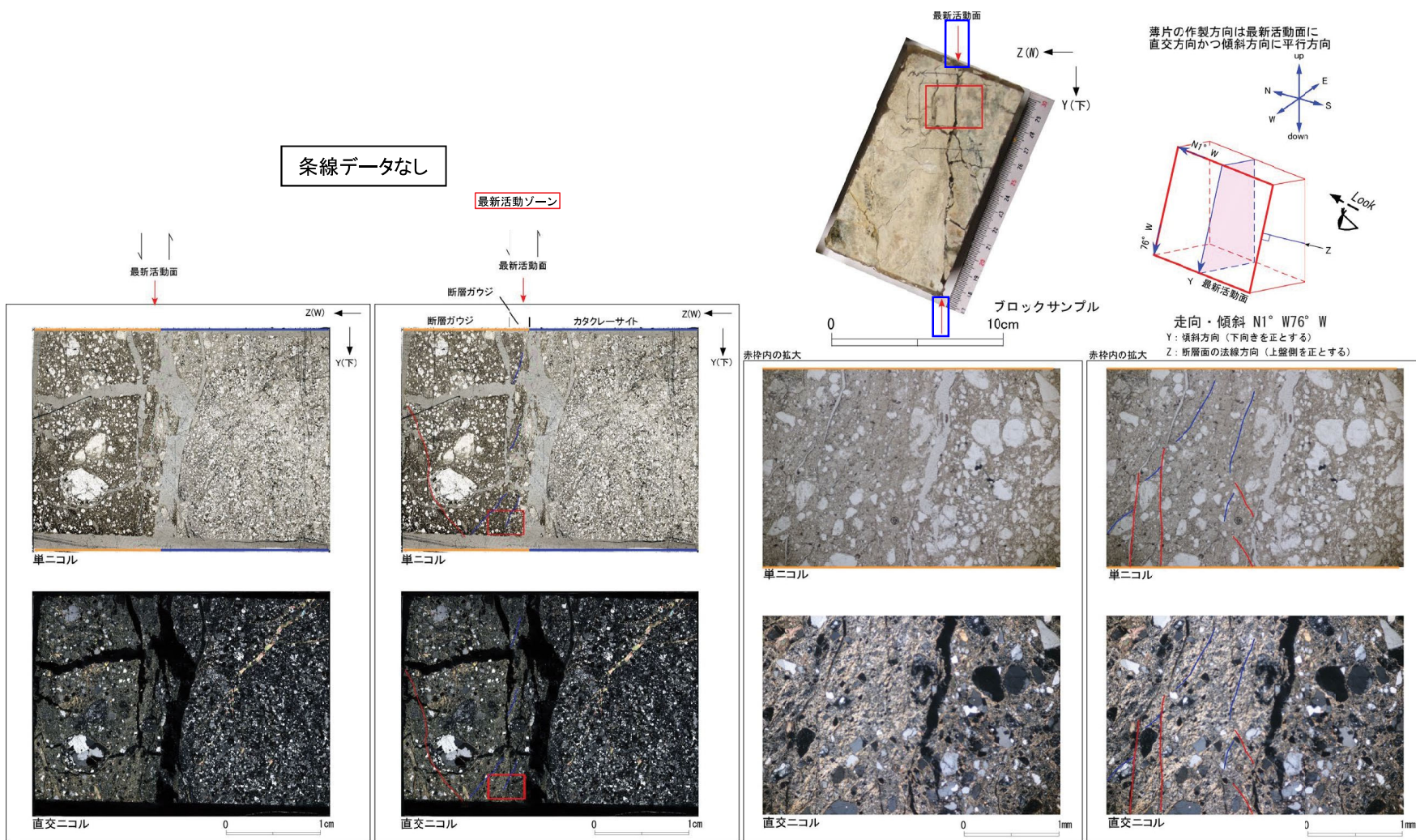


青枠部拡大

0 5 cm

- ・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度109.16m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

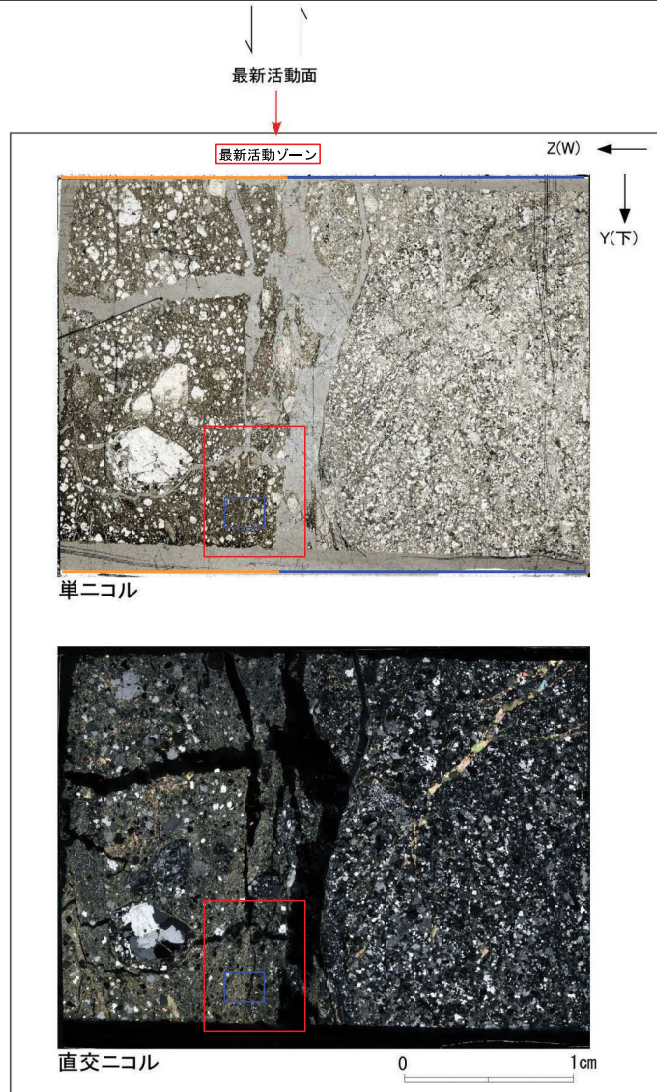
鉛直断面：最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



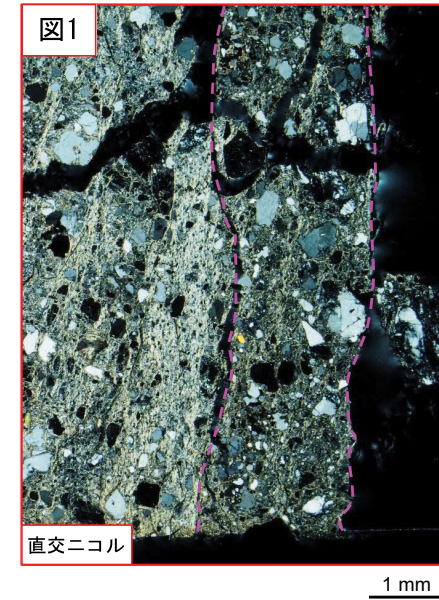
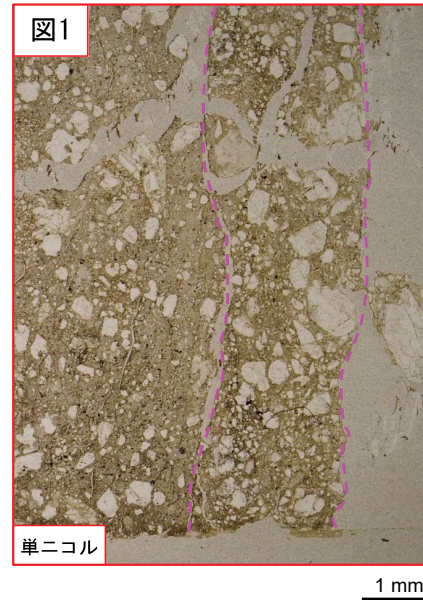
H24-B14-2 深度109.16~109.46m (2/5)

46のエビデンス (薄片観察結果) (2/5)

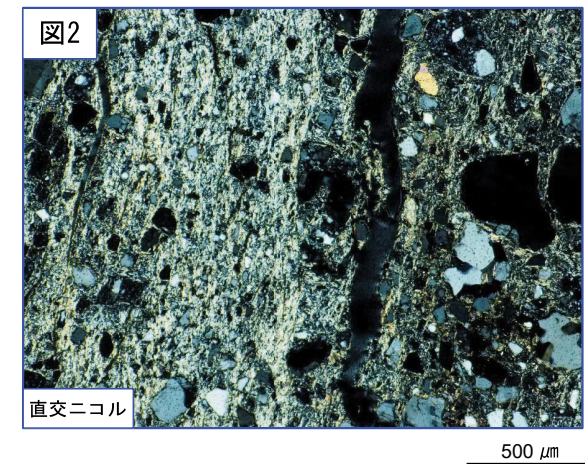
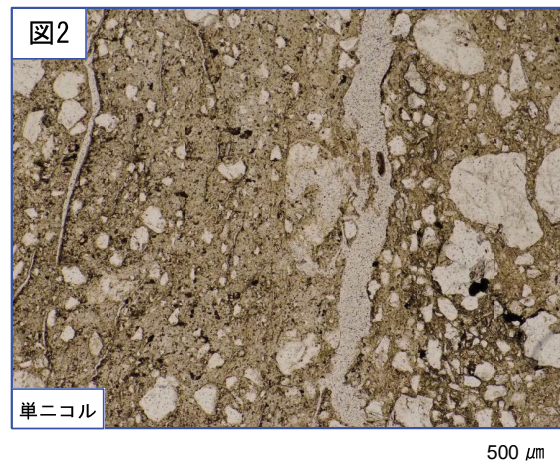
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

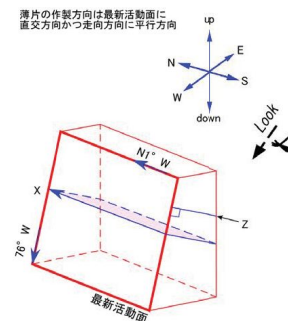
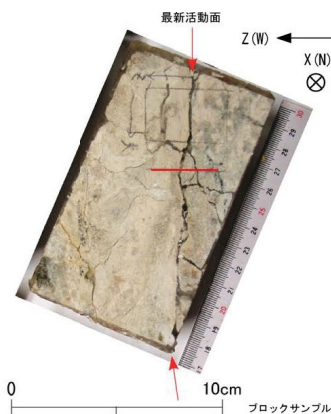


・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度109.16m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

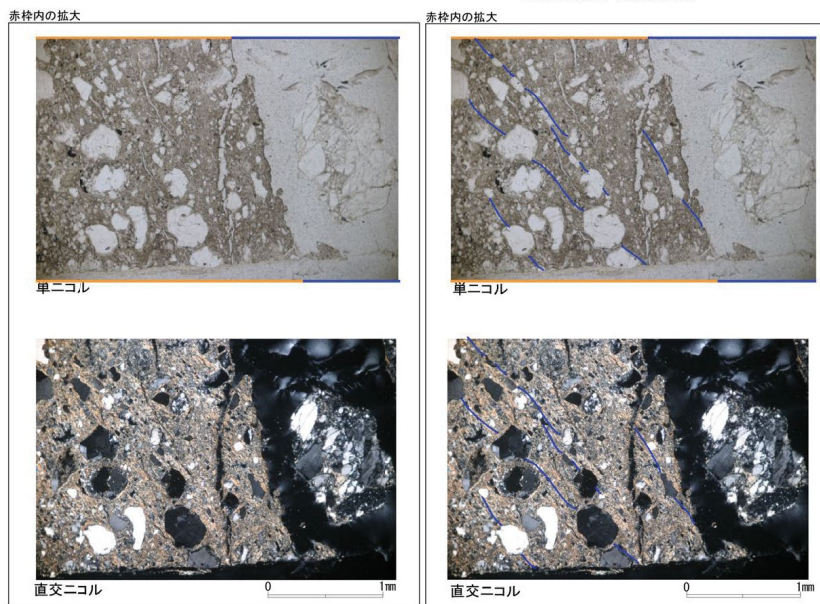
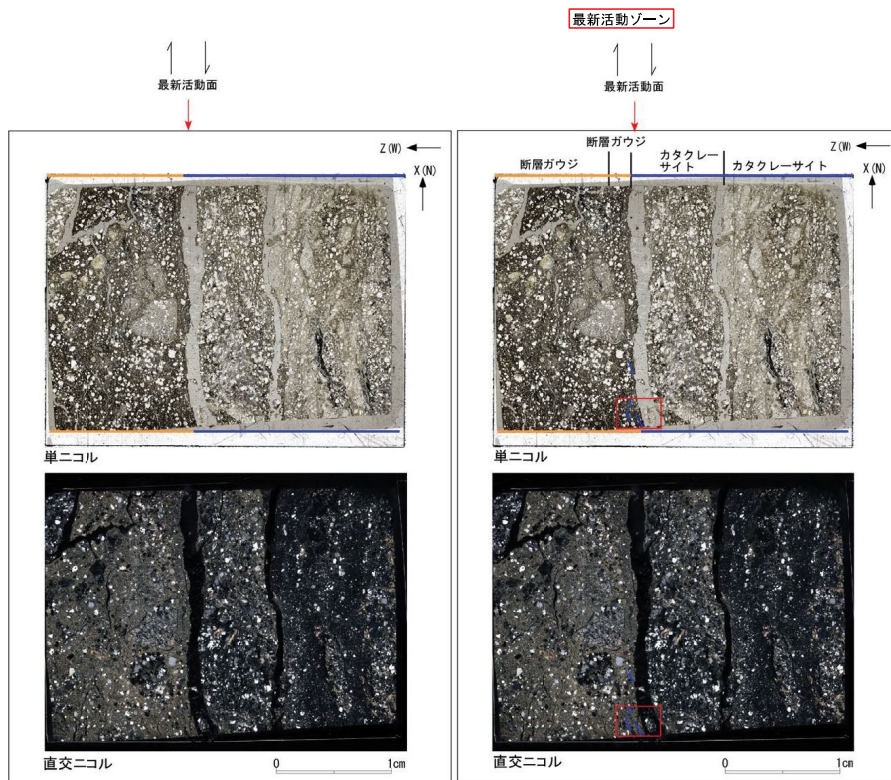
水平断面: 最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

条線データなし



走向・傾斜 N1° W76° W

X: 走向方向 (北向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向 (上登側を正とする)

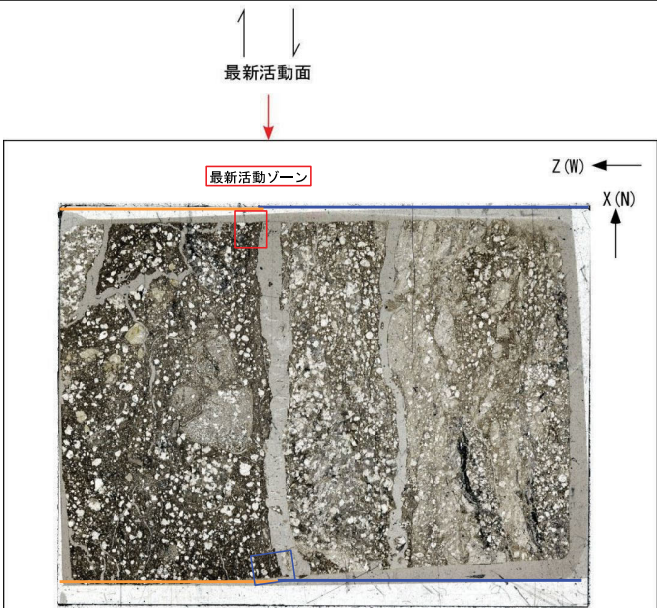


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

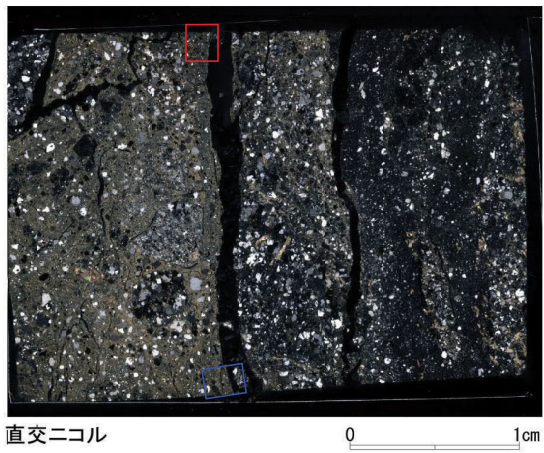
H24-B14-2 深度109.16~109.46m (4/5)

46のエビデンス (薄片観察結果) (4/5)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



単ニコル



直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

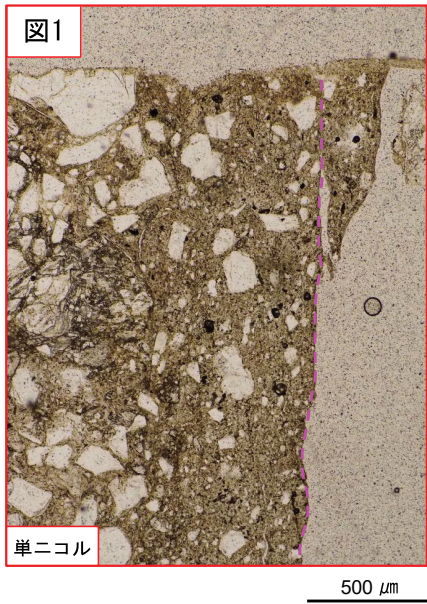


図1

単ニコル

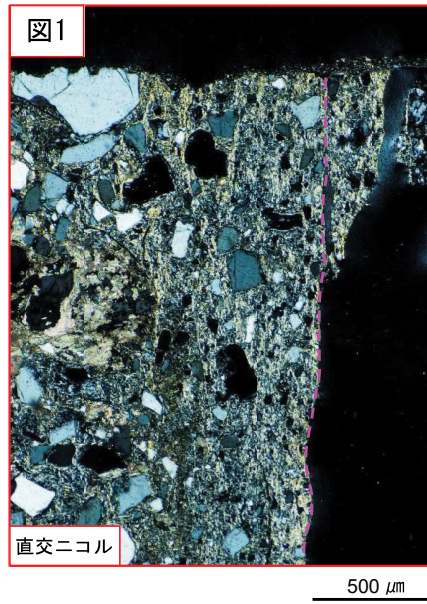


図1

直交ニコル

破線は帯状で直線的な範囲を示す。

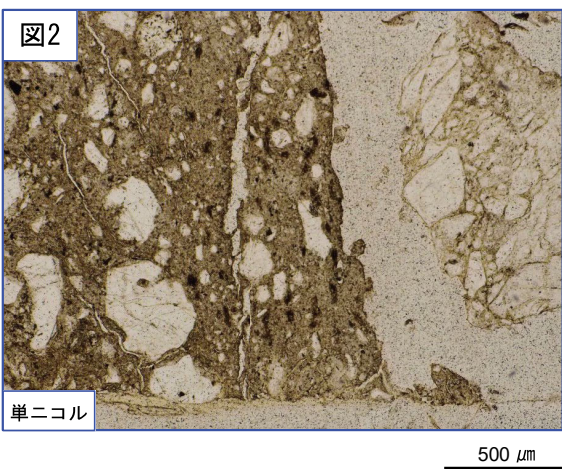


図2

単ニコル

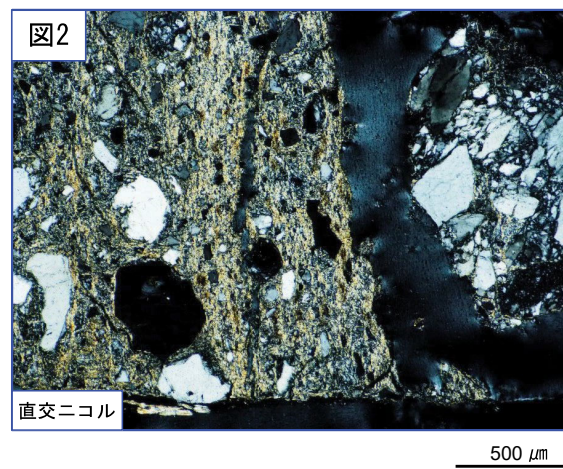


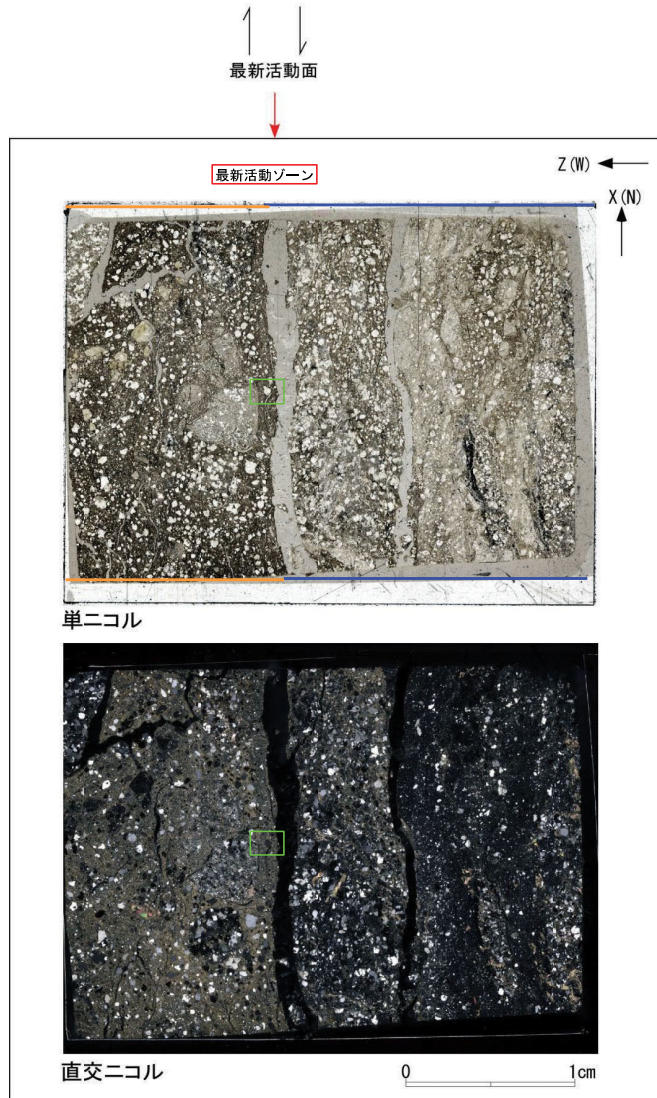
図2

直交ニコル

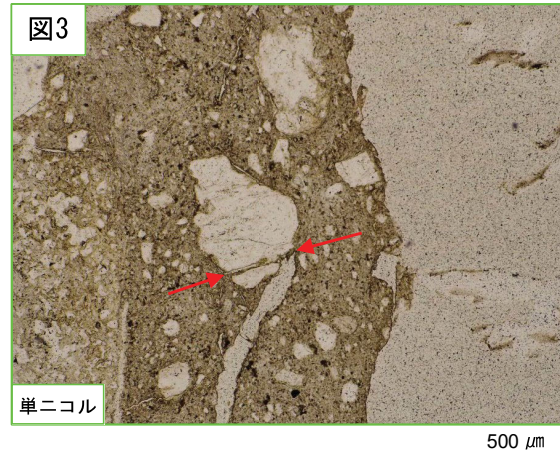
H24-B14-2 深度109.16～109.46m (5/5)

46のエビデンス (薄片観察結果) (5/5)

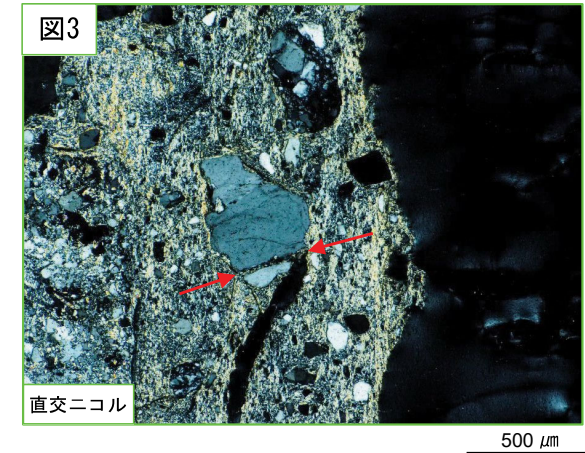
・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



最新活動面認定根拠(H24-D1-2 深度12.38~12.97m)

47のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度12.86mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



凡例
最新活動面

青枠部拡大

0 5 cm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H24-D1-2 深度12.38~12.97m) 47のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は0.5cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



最新活動面認定根拠(H24-D1-2 深度19.78~19.87m)

48のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度19.82mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲*
※:写真上は白色で記載
最新活動面



凡例
最新活動面

青枠部拡大

0 5 cm

明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (H24-D1-2 深度31.44~31.46m) 49のエビデンス
(明瞭なせん断構造・変形構造)

・最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色、にぶい黄橙色、灰赤色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真



凡例
▬ 断層ガウジ ← → 破碎部範囲※ ↘ 最新活動面
 ※: 写真上は白色で記載



青枠部拡大



層状構造

凡例
▬ 断層ガウジ

0 5 cm

最新活動面認定根拠(H24-D1-4 深度10.91~10.93m)

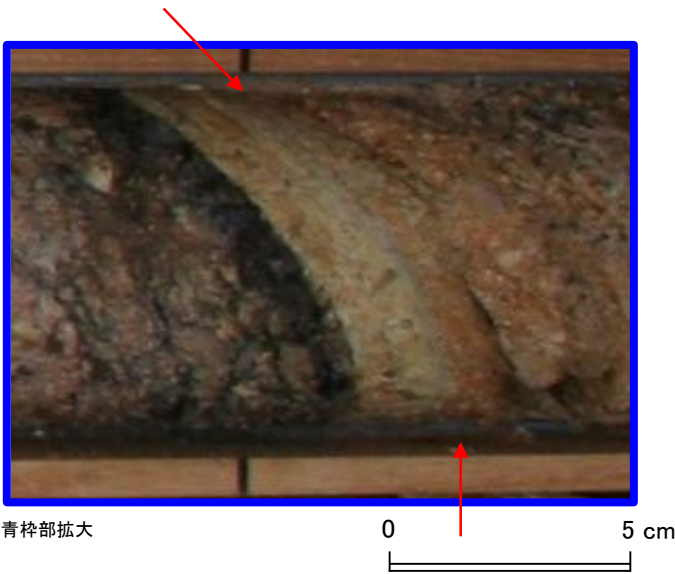
50のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度10.93mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

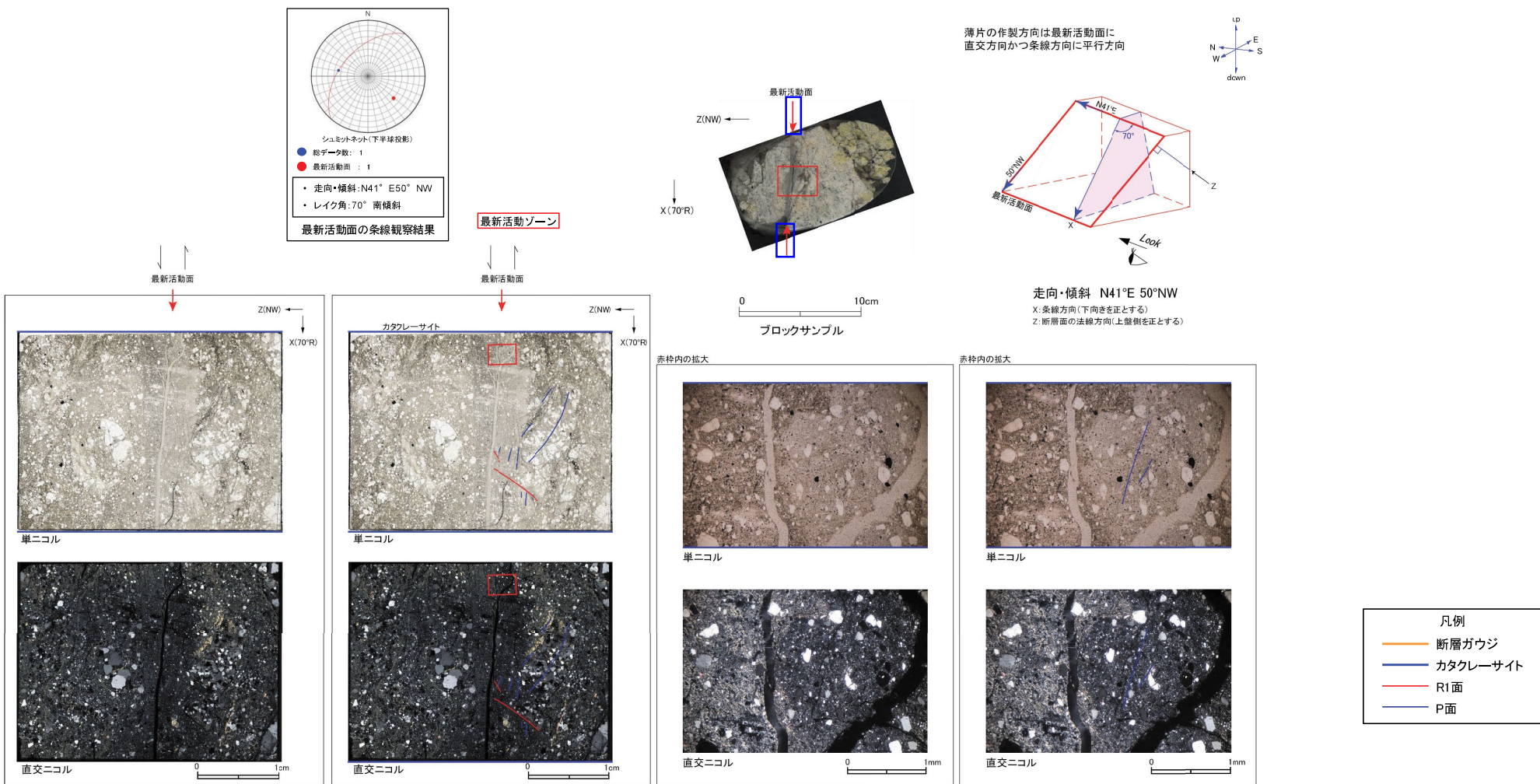


凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



凡例
最新活動面

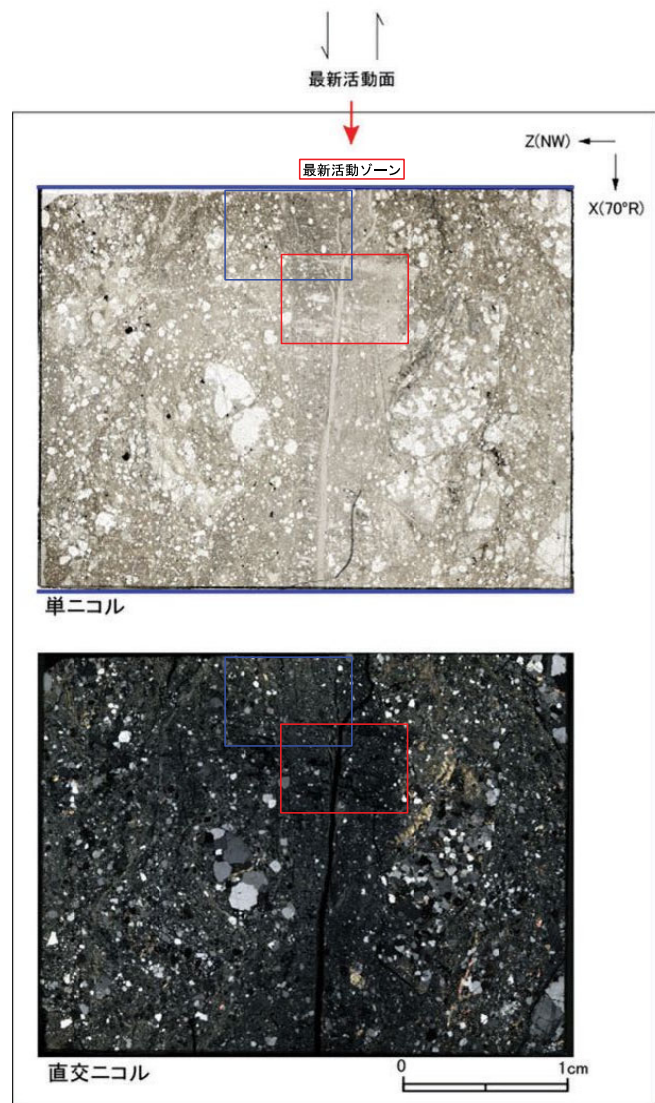
- ・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度53.05m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 最新活動面に沿った粘土状部は連続しない。
 - (カタクレーサイト) 岩片量は漸移的に変化する。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 - (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



H24-D1-4 深度52.97~53.46m (2/3)

51のエビデンス (薄片観察結果) (2/3)

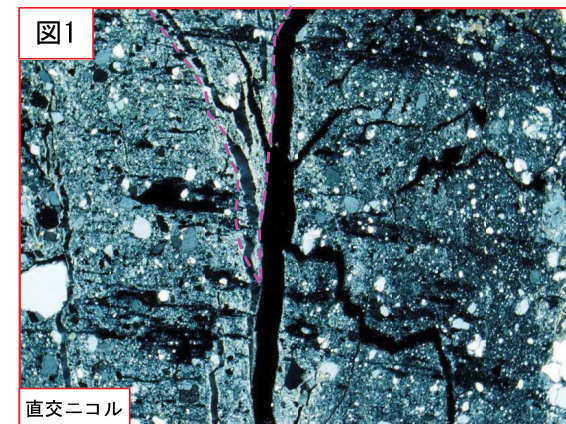
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 最新活動面に沿った粘土状部は連続しない。(図1)
 - 岩片量は漸移的に変化する。(図2)



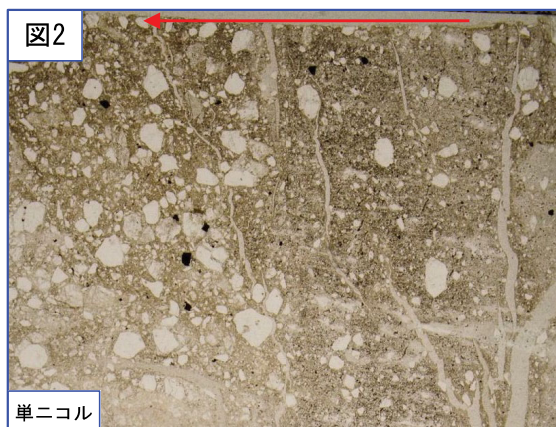
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



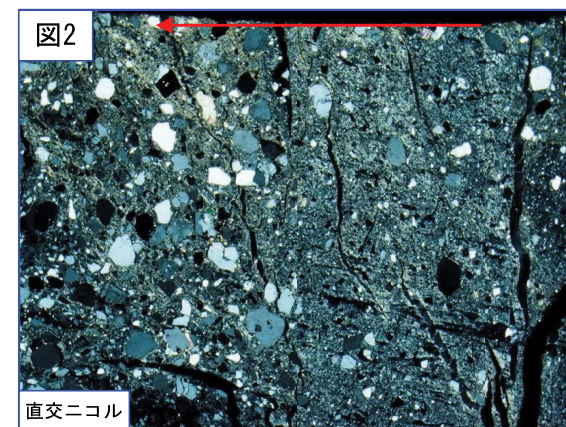
破線は粘土状部の分布範囲を示す。 1 mm



1 mm



赤矢印: 岩片量が漸移的に増加する。 1 mm

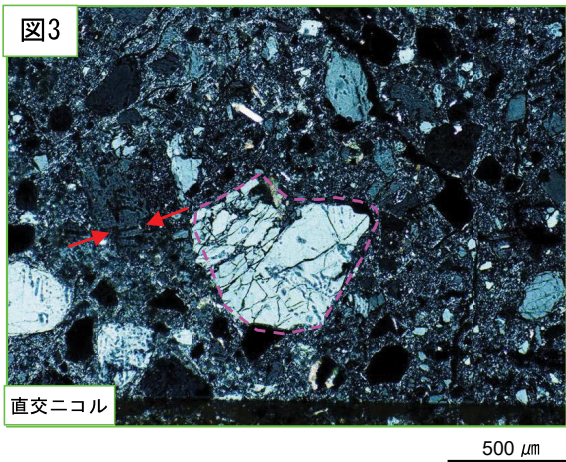
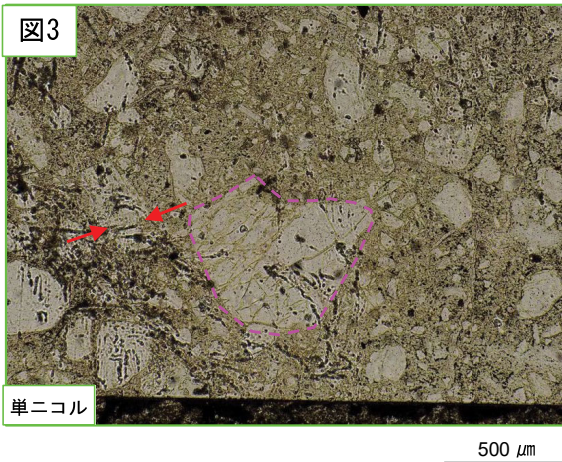


1 mm

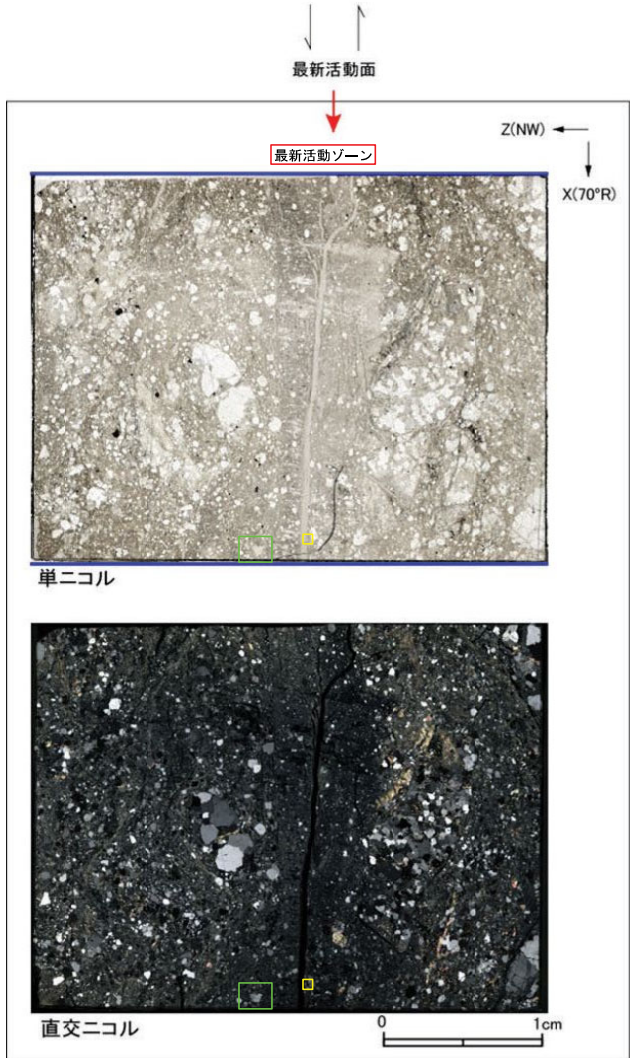
H24-D1-4 深度52.97~53.46m (3/3)

51のエビデンス (薄片観察結果) (3/3)

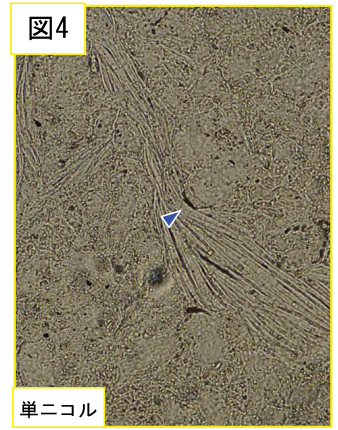
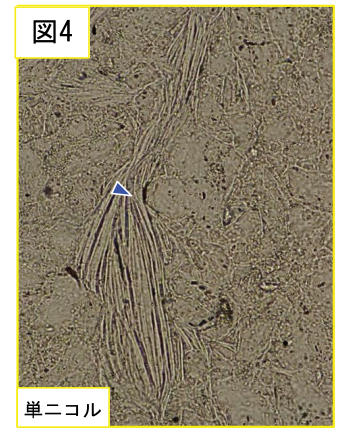
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図3)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図3)
- 角ばった岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



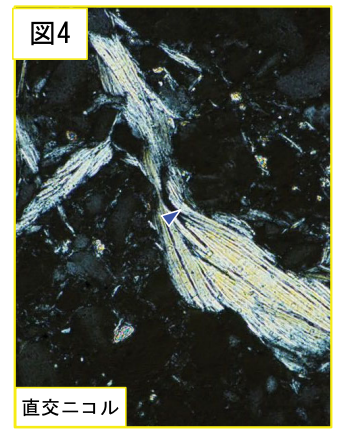
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



→
ステージを反時計回りに
約45度回転



青矢印は屈曲箇所を示す。
50 μm

最新活動面認定根拠(H24-D1-4 深度63.67~63.90m)

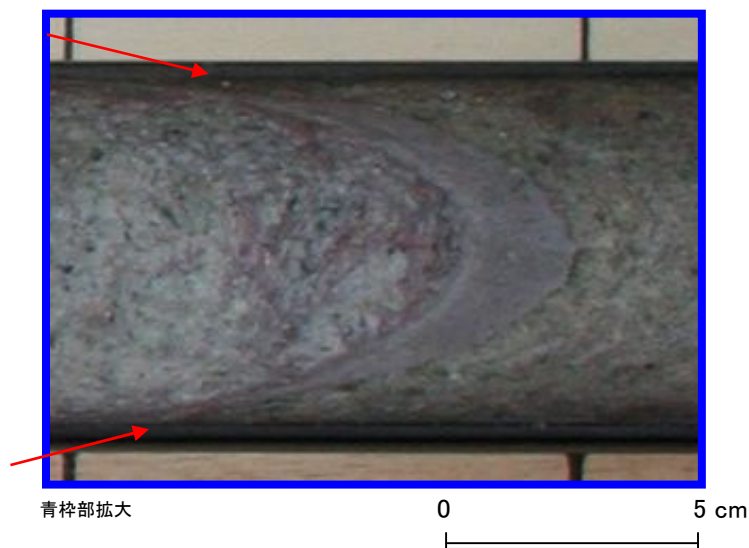
54のエビデンス(最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度63.90mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



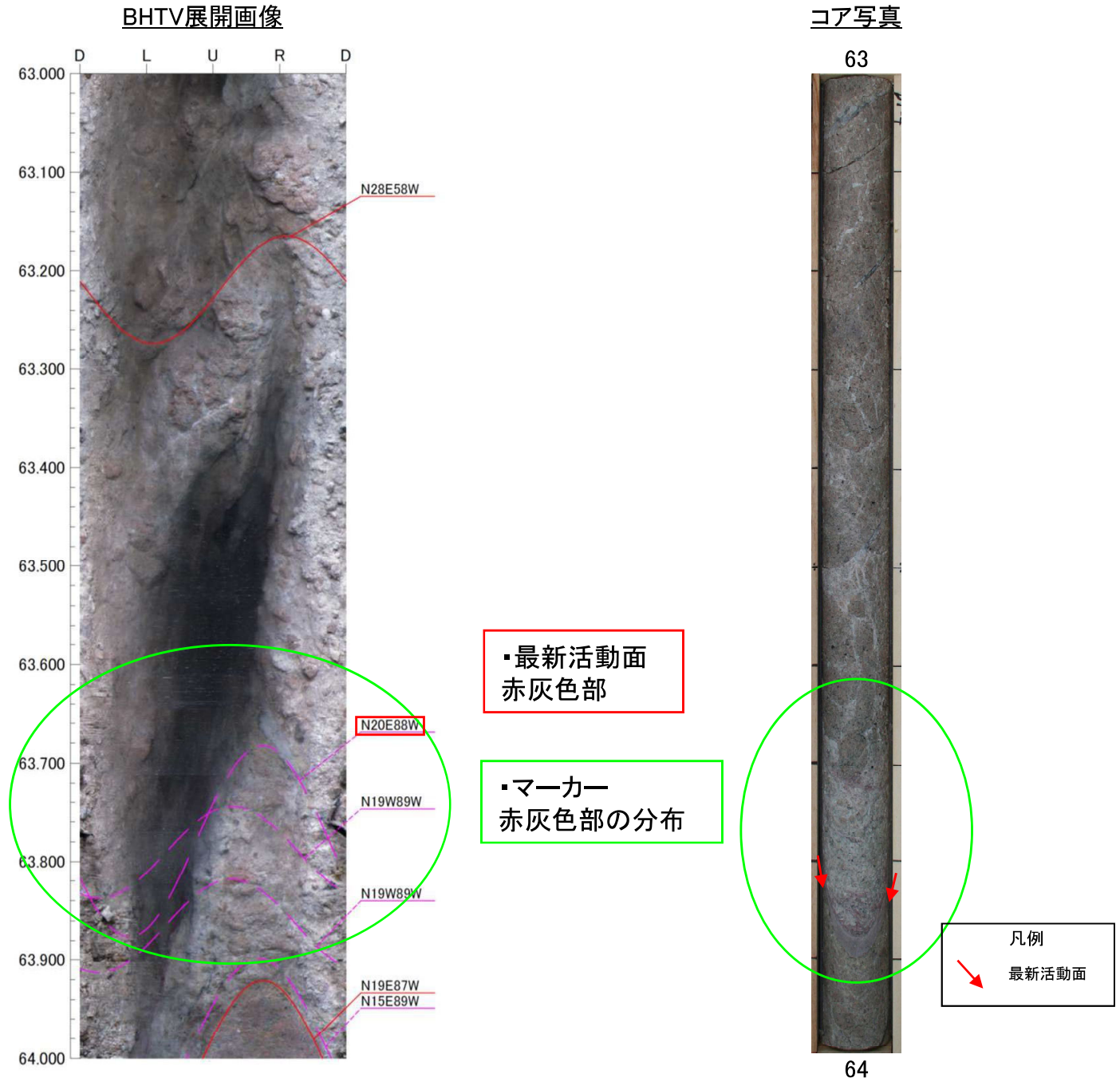
凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



凡例
最新活動面

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-D1-4 深度63.67~63.90m) 54のエビデンス (走向・傾斜)

・ H24-D1-4 深度63.67~63.90mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN20° E88° Wでである。



条線観察結果 (H24-D1-4孔 深度63.90m)

54のエビデンス (条線)

H24-D1-4孔 深度63.90mの断層面の走向・傾斜はN20° E88° Wであり, 66Lの条線が認められる。

コア写真

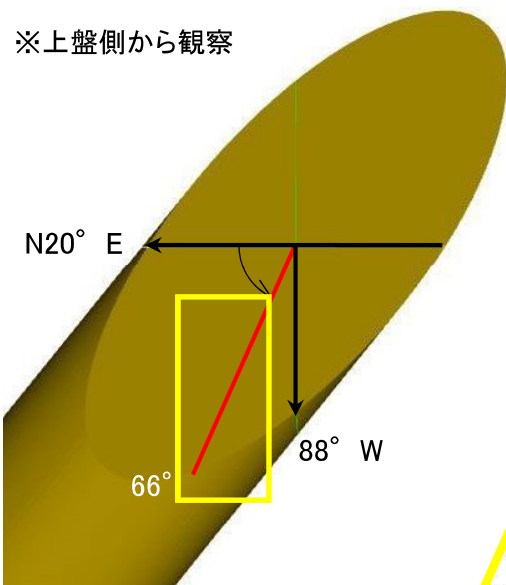


凡例

- 条線観察位置
- ← 破砕部範囲※
- 最新活動面

※: 写真上は白色で記載

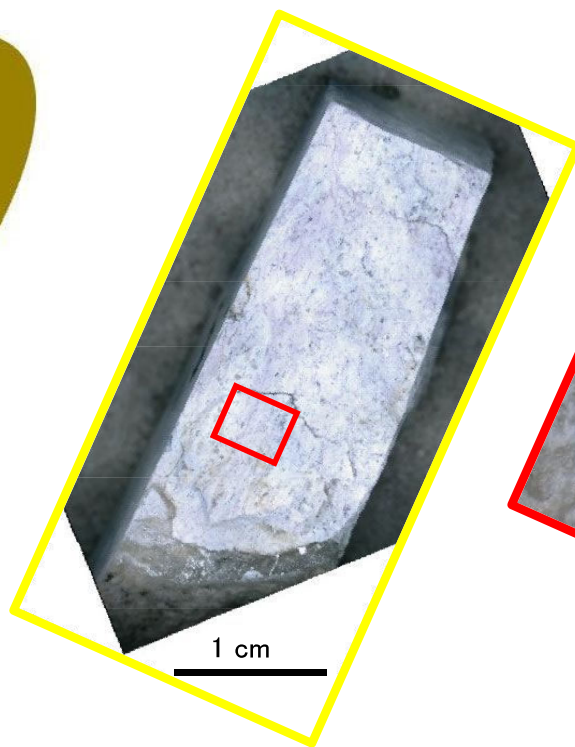
観察模式図



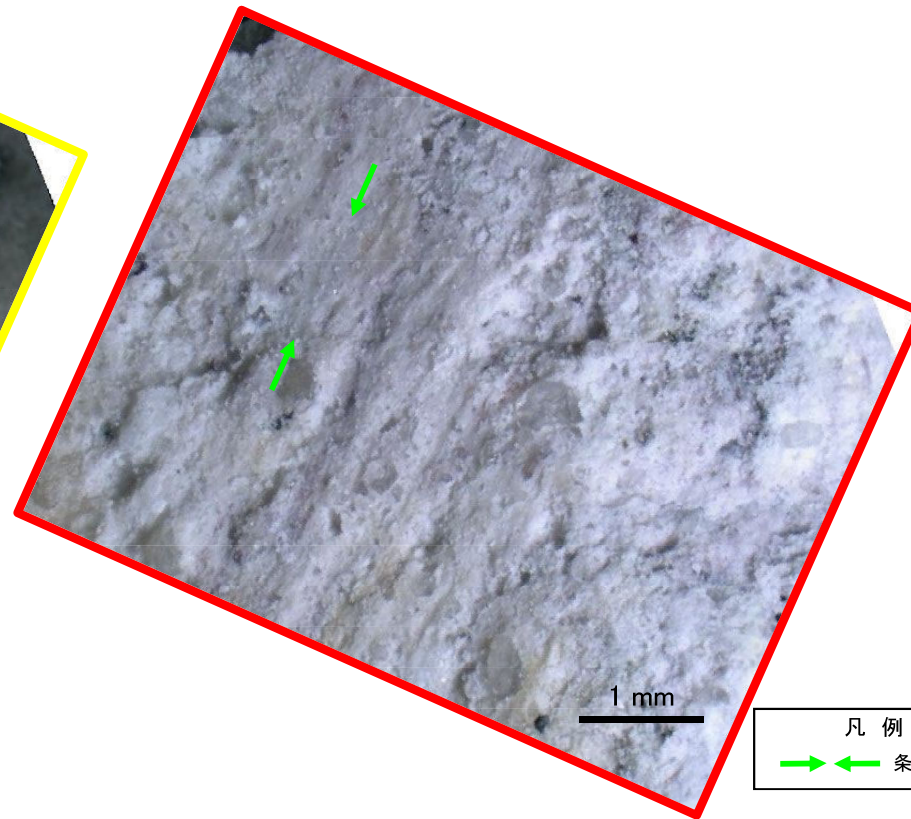
凡例

- 最新活動面
- レイク

条線観察位置拡大



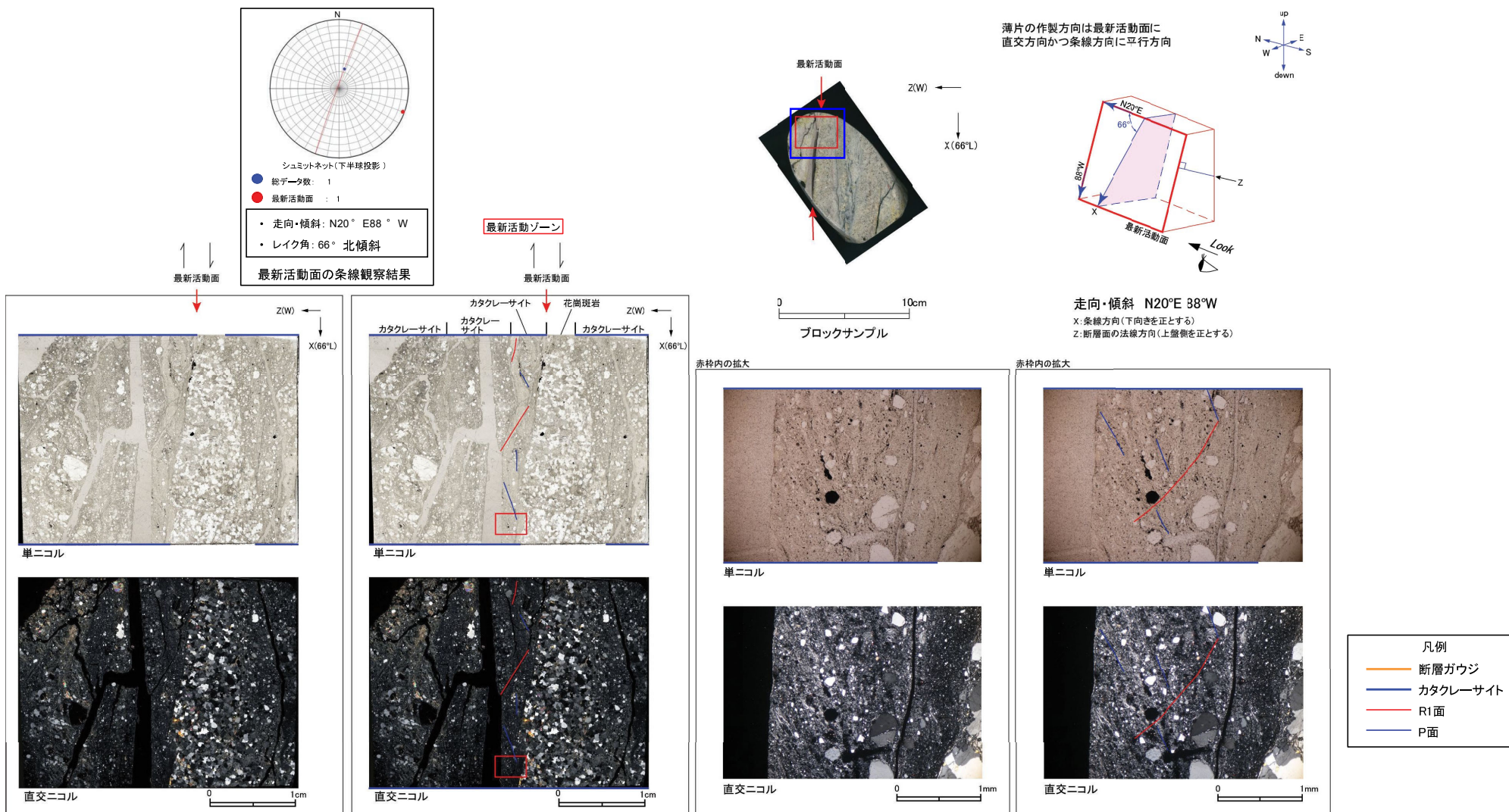
赤枠内拡大



凡例

- 条線方向

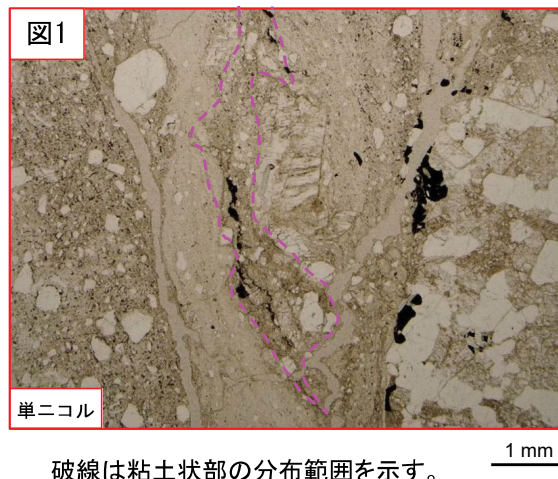
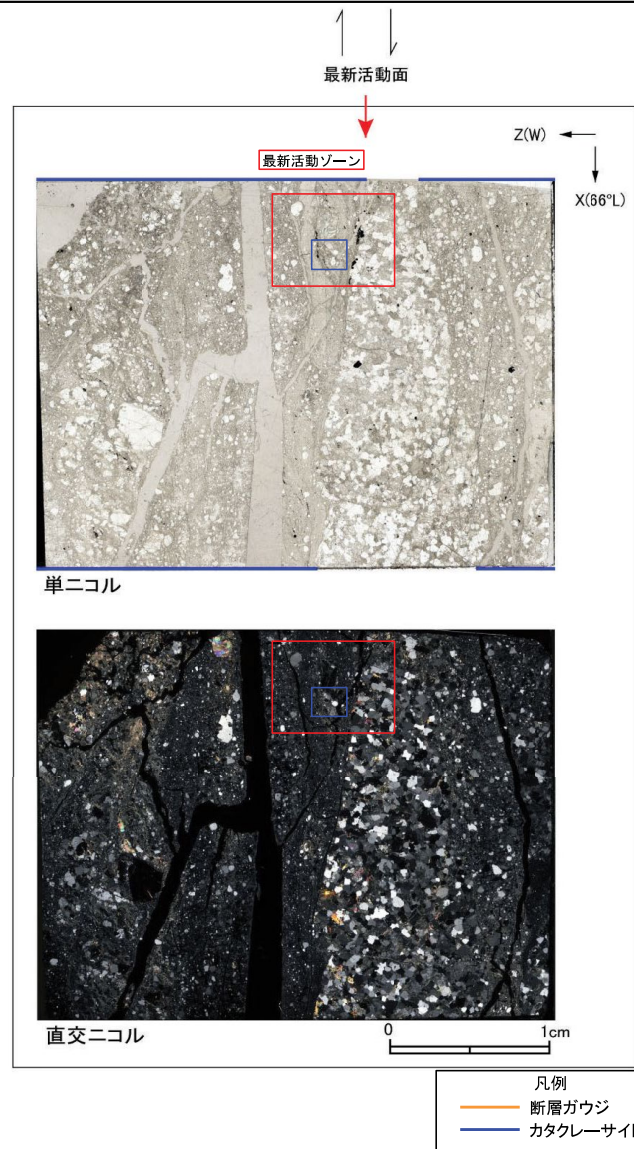
- ・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度63.90m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



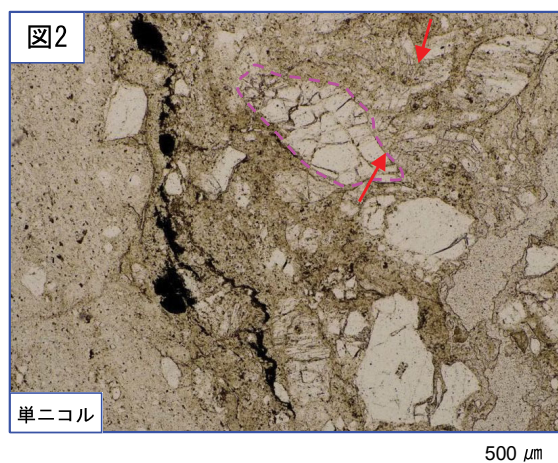
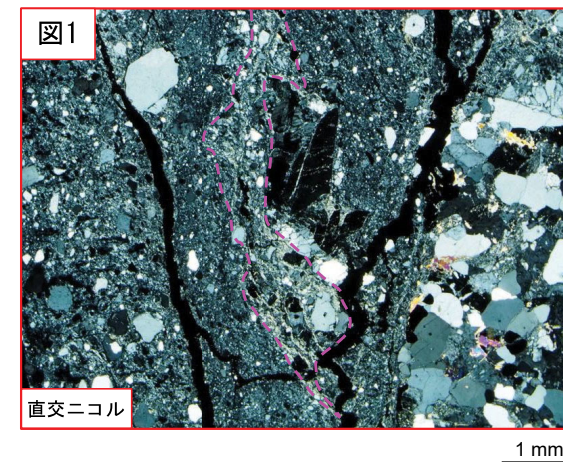
H24-D1-4 深度63.67～63.90m (2/2)

54のエビデンス (薄片観察結果) (2/2)

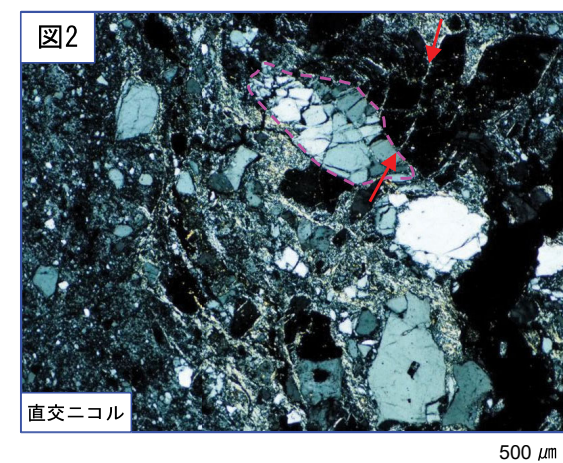
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



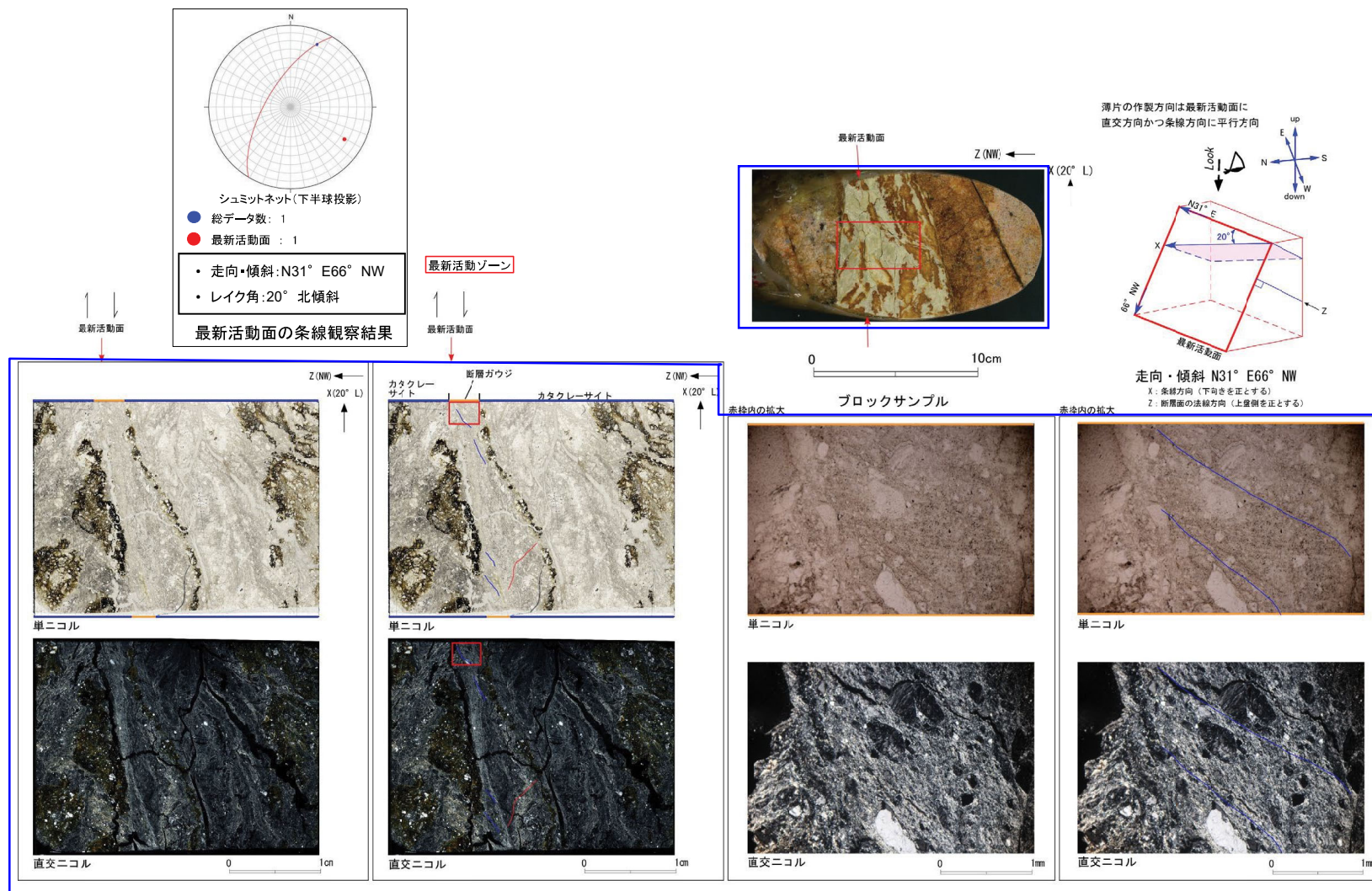
破線は粘土状部の分布範囲を示す。



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
 破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



- ・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度14.47m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

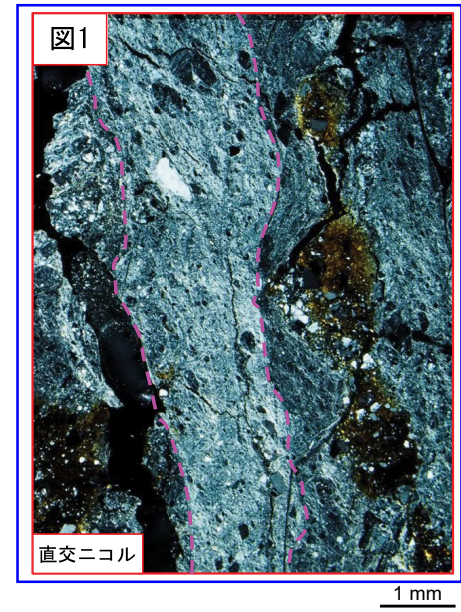
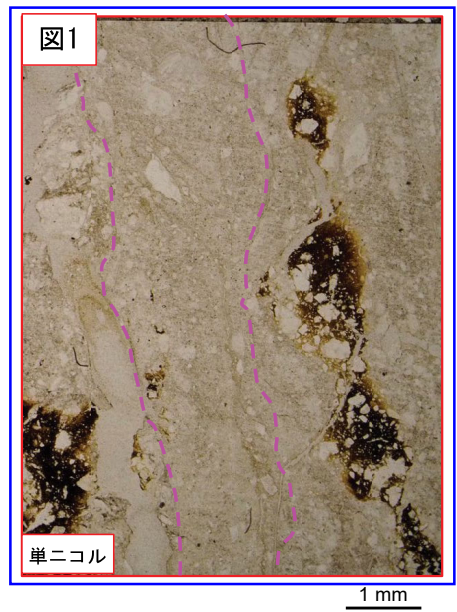
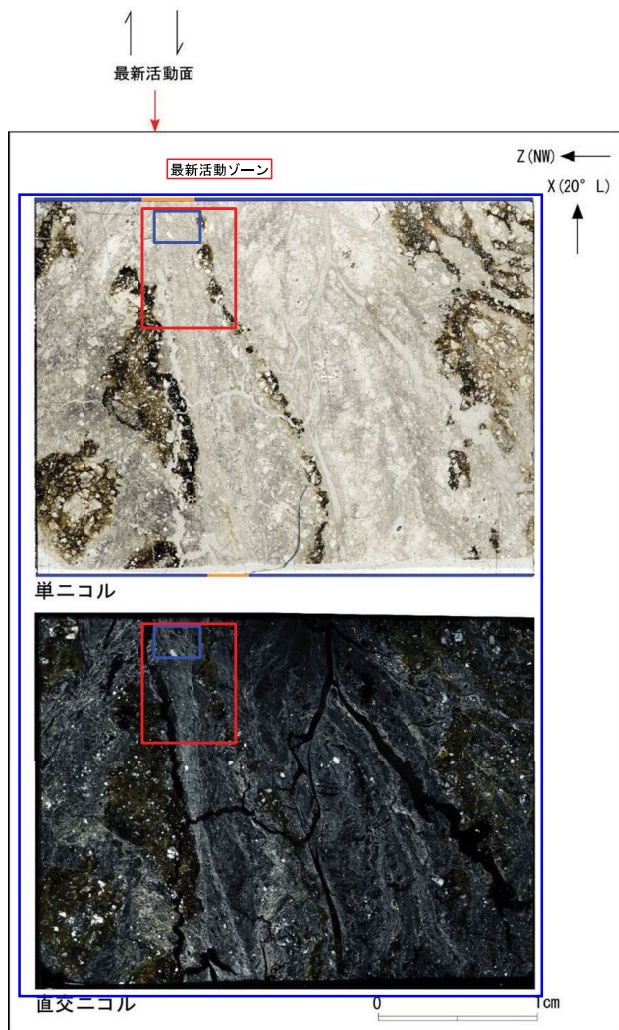


H24-D1-3 深度14.41~14.52m (2/2)

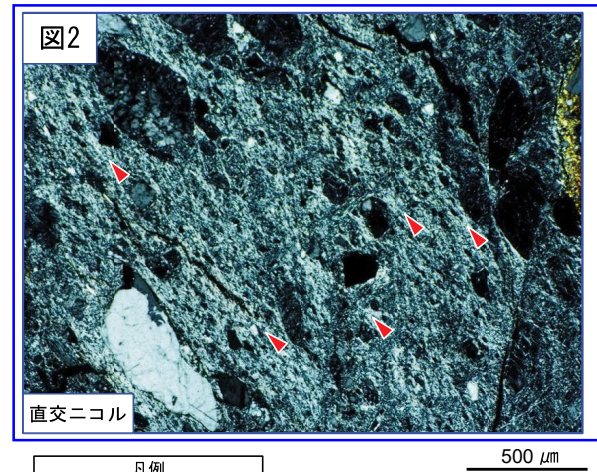
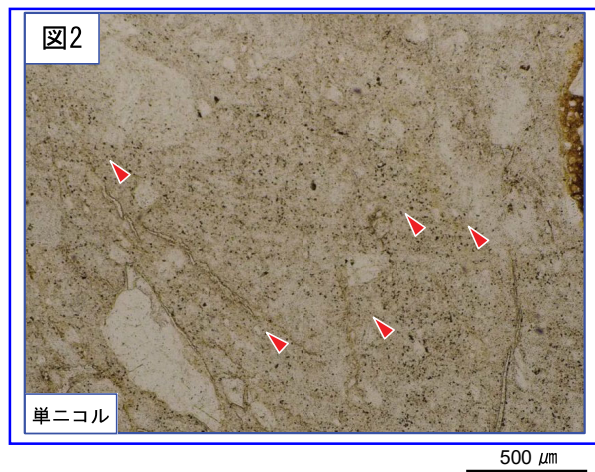
青枠：修正箇所

55のエビデンス（薄片観察結果）（2/2）

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1, 2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。



赤矢印は粘土鉱物の配列を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H24-D1-3 深度14.41~14.52m) 55のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は1.8cmである。

コア写真



凡例

断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載

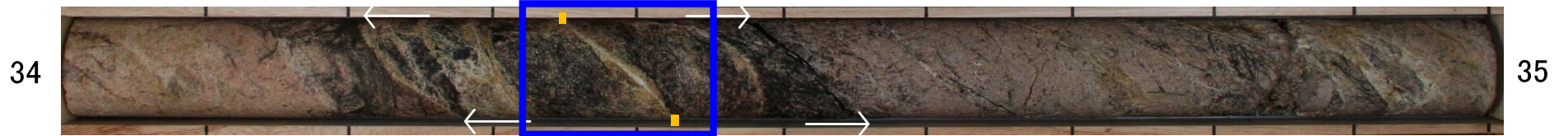


青枠部拡大

0 5 cm

・実測した断層ガウジの幅は0.7cmである。

コア写真



凡例

断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載



青砕部拡大

0 5 cm

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度52.13m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。

